

Case.31

国立大学法人山口大学

やまぐち未来創生リーダー（YFL）育成における RESAS の活用

山口大学の概要

山口大学は、1815年に長州藩士の上田鳳陽によって創設された私塾「山口講堂」を起源とし、1949年に新制大学として創設された9学部を有する総合大学である。

山口大学は、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）^{※1}」の申請代表機関として、県内の大学や自治体、企業等と連携して「やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業」を展開している。この事業では、地方創生の中心となる人材の育成や県内企業への就職率の向上等を目標に、様々な取組を行っている。

その一つが、「やまぐち未来創生リーダー（Yamaguchi Frontier Leader：YFL）育成プログラム」の構築および実践である。これは、1年次から3年次において、座学、フィールドワーク、インターンシップ等を通じて地域への理解を深めるとともに、地域の企業が求める力を育成するものである。

このほか、学生が身につけた能力と企業が求める能力のマッチングを図るとともに、学生が求める企業情報を提供する「やまぐち就職支援マッチングシステム」の構築、自治体や企業、NPO法人等との協力による就職先に関する情報提供や学生と社会人の交流・意見交換の場の設定、地域で活躍する企業人等による講演会・セミナーの開催等に取り組んでいる。

「やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業」は、これらの取組を通じて、山口大学を含む事業参加校の卒業生の山口県内の企業等への就職率を、2015年度から2019年度までの5年間で10%以上向上（2014年度比）させることを目指している。

このように、山口大学は地元との結び付きをより一層強固なものとし、地域に求められる大学としてさらなる発展を図っている。

山口県における位置



■ 主要データ

学 生 数

8,744人（2016年5月1日現在、山口大学要覧2016）

1: 自治体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする事業。

やまぐち未来創生リーダー（YFL）育成におけるRESASの活用

利活用事例の全体像 教育活用型

活用の背景

山口大学は、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の申請代表機関として、地域課題解決の中心となる人材の育成を期待されており、グローバルな視点と高い課題解決能力を持った人材である「やまぐち未来創生リーダー（YFL）」の育成プログラムを展開してきた。そのような折、山口県がRESASを活用した地域課題解決策のアイデアを募る「やまぐち☆政策アイデアコンテスト」を開催することを知り、コンテストへの応募をプログラムの一つの目標とし、RESASを活用した分析に取り組むこととした。

RESASの活用内容

コンテストへの応募に先立ち、学生が自身の出身地と山口市の比較を行うなど、山口市への理解を深めるとともにRESASの操作方法や基本知識等を習得する機会を設けた。また、国による出前講座を実施し、RESASの機能や活用方法、コンテストに関する説明等を受け、さらに理解を深めた。その後、学生が各自でRESASを活用し、地域課題の発見、解決策の提言に向けた検討を進めていった。最終的にコンテストには3組が応募し、うち1組が最優秀賞を受賞した。

実践上の工夫

仮説思考に基づくアイデア検討の徹底

学生による分析事例

テーマ：山口市をレンタサイクルで元気に！

背景

山口市は県庁所在地であり、2015年には大規模なイベントが開催されたにもかかわらず、観光客数は下関市を大幅に下回る県内2位にとどまっている。

分析

- ①山口県の目的地分析（観光マップ）
⇒市内には観光客の目的地となる主要観光スポットが少ない。
- ②宿泊業の付加価値額・労働生産性（産業構造マップ）、市内の目的地分析（観光マップ）
⇒湯田温泉街周辺を中心に宿泊業が盛んである。
- ③流動人口メッシュによる主要スポットの流動人口分析（まちづくりマップ）
⇒宿泊前後に周辺の観光地に立ち寄らず他の目的地に移動している可能性が高い。

示唆

主要な観光地が少ないため、宿泊業の強みを活かし、「気軽にいろいろな場所を巡ることができる」工夫が必要となる。

提案

- 観光地を気軽に巡ることができるレンタサイクルの導入
- 駅近の収容数が多い駐輪場を活用してレンタサイクルの拠点とする。
 - 放置自転車や中古自転車の多さを逆手に取り、修理の上、レンタサイクルに活用する。

RESAS利活用により得られた効果

- 地域課題の発見や解決策の検討を通じて、学生が地域をより深く知る機会となり、郷土愛の醸成につながった。
- データ分析や地域課題の発見、解決策提案等の能力が向上し、YFL人材の育成につながった。
- アイデアコンテストで評価されることで地域課題の解決に取り組む学生のモチベーションが向上した。

次年度以降もコンテストへの挑戦を続けるとともに、YFLプログラム内でRESASのさらなる活用が検討されている。また、学部のゼミ活動でRESAS導入の動きがあるなど、学内での広まりが期待されている。

活用の背景

山口大学は、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の申請代表機関として、地域課題解決の中心的役割を担うことのできる人材の育成が求められている。こうした背景のもと、フィールドワークやインターンシップ等を通じた地域に必要とされる能力を持つ人材の育成を目的とする「やまぐち未来創生リーダー（YFL）育成プログラム」を構築し、山口の未来を担う人材の育成に取り組んできた。

そのような折、RESASを活用した分析に基づく地域課題解決のアイデアを募集する「やまぐち☆政策アイデアコンテスト」を山口県が開催することを知った。地域課題解決という目的がプログラムの趣旨と合致する上に、実地調査が中心の従来のメニューに定量的・客観的なデータに基づく検討という新たな要素を加えることにもなるため、YFL 育成プログラムに有益であると考えた。

このほか、学生から YFL プログラムにおいて RESAS を活用してはどうかとの提案があったことも踏まえ、コンテストへの応募をプログラムの目標の一つとして設定し、RESAS を活用した地域課題解決策の提言に取り組むこととした。

（図1）「YFL 育成プログラム」の概要

「YFL 育成プログラム」では、1～3年次にわたる科目により地域が求める「6つの力」の育成を目指している。

[YFL 育成プログラム実施科目]				
(すべての学生が履修できます。)				
履修年次	科目名	内 容	種別	単位
1年次	キャリアデザイン入門	山口の様々な分野で活躍する人材をゲストティーチャーに迎えての「心躍る」キャリア教育	必修	1
1年次	やまぐちの行政・経済を学ぶ	自治体や企業のトップリーダーによる「現場」からの実践的講義	必修	1
1年次	知的財産入門	特許やデザインを扱う知財教育の全国の拠点機関に採択された山口大学による「目からウロコ」の知的財産の世界	必修	1
1年次	山口と世界（やまぐちの歴史・文化を学ぶ）	山口の歴史、文化を素材とした「地元愛溢れる」地域志向科目	必修	1
1年次	サービスラーニング入門	大学・高専で修得した知識・技能を地域や社会に還元するための入門科目	必修	1
1年次	地域協働型知識創造論	マニュアルとは違う、知識・技能を地域の現場で活かすための実践科目	必修	1
1年次	社会情報入門	社会を取り巻く情報の洪水に「クール」に向き合うための基礎科目	必修	1
2年次	サービスラーニング基礎	自治体での観光ボランティア等を通じた県内施設での参加大学・高専学生による合同合宿型フィールドワーク	選択必修	2
2年次	アントレプレナー基礎	起業入門、地域資源の活用等を取り入れた県内施設での参加大学・高専学生による合同合宿型フィールドワーク	選択必修	2
3年次	インターンシップ基礎	学生を受け入れる企業側の意見も取り入れた就業力向上のための基礎科目	必修	1
3年次	地域課題解決型インターンシップ	地域社会が抱える課題を意図した実践的なインターンシップ	選択必修	2
3年次	企業協働課題解決型インターンシップ	企業が直面する課題を意図した実践的なインターンシップ	選択必修	2

YFL 育成プログラムで地域が求める次の6つの力を育成します。

① やまぐちスピリット

山口県は波乱に富んだ歴史、美しい建造物、魅力ある自然環境、実績の高い製造業など様々な地域資源、学問的素材の宝庫です。まずはこれをじっくりと学びます。

② グローカルマインド

グローバルな幅広い視野と、その視野の広さを活かして目の前の課題に取り組める柔軟性を養います。

③ イノベーション創出力

様々な情報が乱れ飛び、ネットでそれが簡単に手に入られる今だからこそ、必要な情報を的確に把握し、それを新しい切り口で形にできるような力を鍛えます。

④ 協働力

目標を共有し、その達成に向けて、お互いの能力・立場を理解し合いながら、自分の立ち位置を意識した行動ができるようなバランス感覚を育てます。

⑤ 課題発見・解決力

与えられた問題、そのためのマニュアルではなく、自らの知識や技能を駆使して課題を抽出し、解決のためにその課題に向き合う姿勢を身に付けます。

⑥ 挑戦・実践力

大学・高専で身につけた専門知識や技能を様々な場面で活用してみようとする積極性、実践に移そうとする行動力を育成します。

RESASの活用内容

地域課題の発見や解決策の検討を学生が円滑に進められるよう、まず、RESASの操作方法や基本知識等について学ぶ機会を設けた。ここでは、RESASを使って学生の出身地と山口市を比較してみることで、山口市への理解を深めることをねらった。

また、国によるRESAS出前講座を大学で開催し、RESASが全国でどのように利活用されているか、RESASにどのような機能があるか、アイデアコンテストとは何か等について学生の理解を深める機会とした。RESASや地方創生に関する前提知識の習得を促した上で、チームまたは個人それぞれで、RESASを活用した地域課題発見・解決策の提案に向けた検討を開始した。

最終的に、「やまぐち☆政策アイデアコンテスト」には3組がアイデアを応募した。そのうち、個人で応募した学生が最優秀賞を受賞し、学内で大きな話題を呼んだ。

経済産業省中国経済産業局職員が山口大学を訪問し、関心のある学生を対象に出前講座を実施した。



理学部1年生のアイデアが、大学生・一般の部で最優秀賞を獲得した。



コンテストの応募に向けた検討は、基本的には学生各自で進められたが、取組のとりまとめを務めるCOC+事業推進本部が学生に対し徹底させたのが、「仮説思考」に基づき検討することである。仮説思考とは一般に、目的に到達するために必要なことをあらかじめ想定した上で分析や検討を行う考え方を指す。

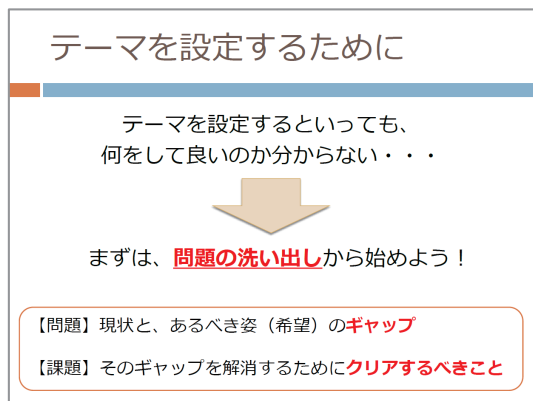
大学側のねらいは二つあった。まず一つは、RESASはあくまで課題解決のための手段であることを理解させるためである。「RESASを使って何ができるか」ではなく、「自分の関心のある分野の課題を解決するために、RESASをどのように活用できるか」という視点で分析を行うため、まず、地域の「あるべき姿」を考えることから始め、そのあとに現状分析を行うよう呼びかけた。

もう一つのねらいは、作業の効率化である。10月上旬がコンテストへの応募の締切だったが、検討を開始したのは8月中旬で、1か月余りしか猶予がなかった。その上、夏休み期間と重なり、インターンシップに取り組む学生もいたため、コンテストに向けた検討に多くの時間を割けない状況であった。仮説思考に基づく検討は、結論を最短距離で導くことにつながると考え、学生にこれを徹底させた。

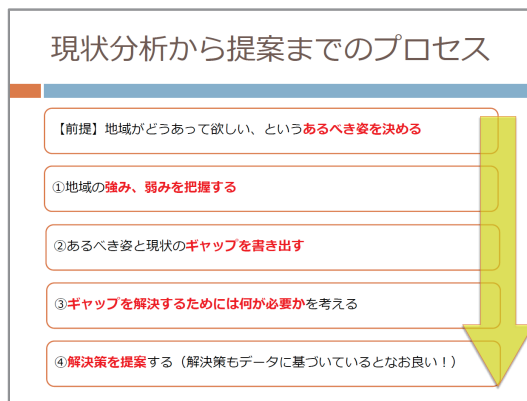
これらの大学側のねらいを経済産業省中国経済産業局と共有し、出前講座実施時に、学生に説明した。この工夫が、短い検討期間で最優秀賞受賞を可能にした要因であると考えられている。

(図2) 中国経済産業局による出前講座の資料(抜粋)

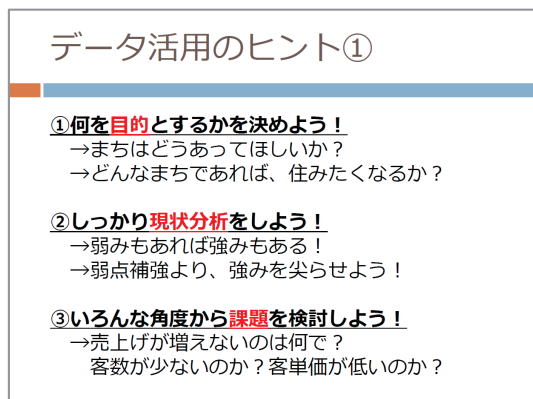
①



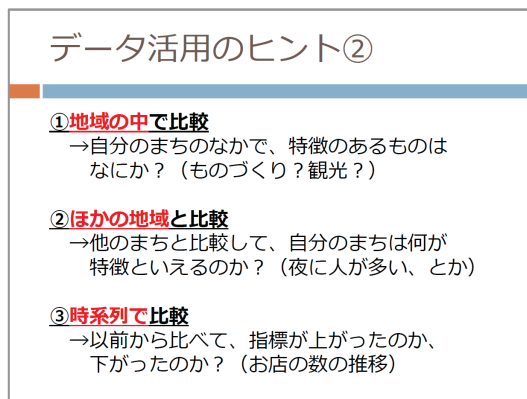
②



③



④



学生の分析事例

山口市は県庁所在地であり、2015年には「世界スカウトジャンボリー」や「ねんりんピック」等の大規模なイベントが開催されたにもかかわらず、近年の観光客数は下関市を大きく下回る県内2位にとどまっていることに着目し、市の観光客増加のためのアイデアを検討した。

RESASを活用して観光客の動きや他自治体と比較した強みを分析したところ、温泉街を中心とした宿泊業が市の強みとなっていることが分かった。一方、観光客の目的地となるような主要な観光スポットがなく、温泉街からも若干の距離があるため、宿泊前後に市内の観光スポットに立ち寄らず、他の目的地に移動している可能性が高いことを把握した。そこで、宿泊施設と観光地、あるいは市内の観光地間の移動を便利にし、気軽にいろいろな場所を巡ることができるような工夫が必要と考えた。

これらを踏まえ、「観光地を気軽に巡ることができるレンタサイクル」の導入を提案した。このアイデアは、駅近くに収容数の多い駐輪場があることや、放置自転車・中古自転車が多くの修理により転用が容易であるなど、実現性も考慮したものとなっている。

この提案は、大学生ならではの視点が評価され、「やまぐち☆政策アイデアコンテスト」で最優秀賞を受賞した。

(図3) 学生による提案資料 (抜粋)

①

現状～山口市の観光客動向～

山口市は県庁所在地であり、平成27年には世界スカウトジャンボリー、ねんりんピック等の大規模なイベントが開催された。
しかし、観光客の数は下関市と比べると大幅に少ない。

市町別観光客の状況 (単位:人)

順位	市町名	平成27年	平成26年
1	下関市	6,677,828	6,791,242
2	山口市	4,670,592	4,312,787
3	岩国市	3,114,875	2,970,357
4	萩市	3,065,999	2,301,054
5	防府市	2,219,808	1,866,333

出典：平成27年度 観光客動態調査、観光客動態調査(山口県) 観光政策課、観光プロジェクト推進室

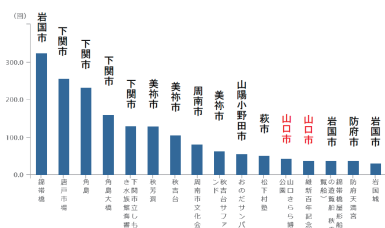
②

RESASを用いた分析～山口県の目的地分析～

特徴① 観光客の目的となるような主要な観光地が少ない

山口県の目的地分析

表示年月：2015年すべての期間（休日）
指定地域：山口県
交通手段：公共交通



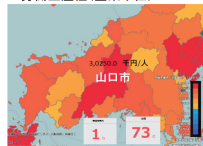
③

RESASを用いた分析～自治体比較マップ～

特徴② 宿泊業が盛んである

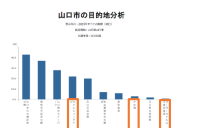
付加価値額(企業単位)

労働生産性(企業単位)



特に湯田温泉街周辺が主要な場所である

□…湯田温泉周辺の宿泊施設



④

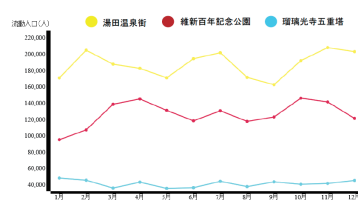
RESASを用いた分析～メッシュ分析～

特徴③ 宿泊施設利用前後に周辺の観光地を訪れる人が少ない

宿泊施設の利用前後、周辺の観光地には立ち寄らずに他の目的地に移動している可能性が高い

流動人口マップ 2015年(休日)月別推移

2015年(休日)月別推移



⑤

特徴③の理由として考えられること

宿泊施設から観光地までの距離が少し遠い

維新百年記念公園

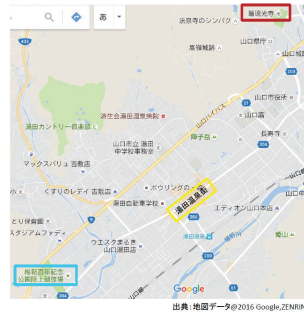
2.3km

湯田温泉街

4.6km

瑠璃光寺五重塔

歩いて行くには
ちょっと大変...



⑥

特徴①～③をまとめると

●主要な観光地が少ない

⇒一つの観光地を目指してもらうのではなく複数の観光地を楽しんでもらう

観光地 ↔ 観光地 の促進

●山口市の最大の武器は宿泊業

⇒宿泊施設から観光地へ行きやすくなるような工夫が必要

宿泊施設 ↔ 観光地 の促進

キーワード

「気軽にいろいろな場所を巡ることができる」

⑦

政策アイデア

これらをふまえて

「観光地を気軽に巡ることができる
レンタサイクル」

を提案します！

レンタサイクルとは...旅行者
や地域住民に自転車を出
すサービスのこと



⑧

山口市の自転車環境

①駅近くに収容数の多い駐
輪場がある

⇒ここをレンタサイクルの拠
点とすれば場所と利用者の
確保が見込める



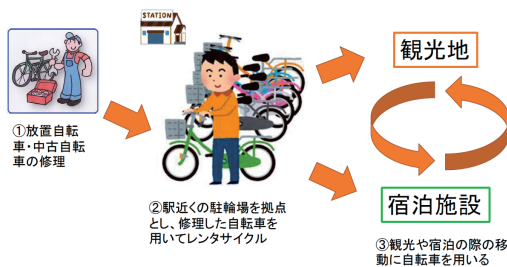
②人の転入の激しい大学が
付近にある等の理由から、
放置自転車・中古自転車が
多い

⇒それらを修理してレンタサ
イクルに生かせば初期投資
削減、放置自転車の有効活
用になる



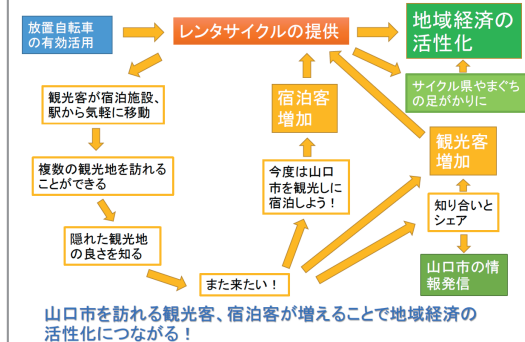
⑨

具体的な政策アイデア



⑩

期待される効果



RESAS利活用により得られた効果

山口大学では、RESASを活用したコンテストへの応募に取り組んだことで、学生に生じた様々な変化が実感されている。まず、RESASを用いて地域課題を発見し、解決策を検討することで、地域をより深く知り、郷土愛を醸成することにつながった。また、課題を発見する能力や解決策を導く能力、データの分析能力等、大学を卒業した後にも役立つ能力の向上につながった。さらには、アイデアコンテストで最優秀賞を受賞した学生が生まれるなど、自分たちの提案が評価される経験をしたことで、地域課題解決に取り組む学生のモチベーション向上にもつながった。

これらを踏まえ、YFL人材の育成にとって、コンテストの応募は効果的と判断し、次年度以降もコンテストへの応募を継続する予定である。また、YFL育成プログラムにおけるRESASの活用を拡大することも検討している。例えば、YFL育成プログラムの一環として、地場企業へのインターンシップがあるが、山口大学の学生の約7割が県外出身ということもあり、そもそも地域産業の現状に対する前提知識が不足している場合がある。事前学習としてRESASを活用し、地域産業への理解をあらかじめ深めることで、インターンシップによる学習効果の増大を図ることができるのではないかと考えている。

さらに、ゼミ活動においてRESASを活用する動きがみられるなど、YFL育成プログラム以外にも学内でRESASが広まりつつあり、今後の進展が期待されている。

